



## 環境はABC

—いまなぜ環境保護に取り組みねばならないのか—

### ◆気候変動

昨年は気象的に異例づくめで、特に7月は記録的な豪雨と猛暑となり、気象庁では異常気象と総括しました。こうした気候変動は、日本だけでなく世界規模で起きており、温暖化の影響が強く関わっていると思われます。

2018年12月、ポーランドでCOP24（国連気候変動枠組条約第24回締約国会議）が開かれましたが、アメリカのパリ協定離脱表明や、先進国と途上国の意見対立などがあったことから、IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）特別報告書は「2100年までに世界の平均気温の上昇を2℃未満に抑えるという目標達成は難しく、2030年までに1.5℃上昇する」と報じました。

また、世界気象機関（WMO）は、主要な温室効果ガスである二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の世界の平均濃度が、2017年には405.5ppmに達し、過去最高を更新したと発表しました。（産業革命前の水準は約278ppm）

気候変動は、人類が直面する最大の脅威の1つであり、地球規模で実効性のある対策と行動が早急に望まれます。



### ◆3Rでゴミをつくらない

ごみの問題の目標は、3Rによる循環型社会の構築です。3R（リデュース=発生抑制、リユース=再使用、リサイクル=再資源化）は、いずれも「ごみをつくらない」という取り組みで、リデュースやリユースはエネルギーを消費しないことから、ごみ問題を解決する根源的な取り組みといえます。

リサイクルと分別収集は一体のもので、那珂市では再資源化のため紙ごみの分別収集に取り組んでいますが、いまだに家庭ごみの中に40%以上の紙ごみが混在し、無駄に焼却されています。

また、地球規模で大きな問題となっているのが、プラスチックごみです。海洋汚染、特にマイクロプラスチック汚染は、海の生き物に対する影響だけでなく、私たちの健康にも深刻な影響を与えることが危惧されています。



### ◆つくる責任、つかう責任

現在、地球が直面している環境問題は、気候変動やごみのほかにも、生息地の消失、資源の過剰利用、大気や水の汚染などさまざまですが、これらは、企業の生産活動と私たちの消費行動が負荷の要因として根底にあります。

環境問題は、私たちが物質的に豊かで利便性の高い生活スタイルを求め、大量消費・大量廃棄を受け入れ、進めてきた結果により生じたものです。

環境問題の根源的な解決には、生産と消費を持続的なものにしていくしかありません。企業には「つくる責任」が、私たちには「つかう責任」が求められています。

それでは、だれに対して責任を果たす必要があるのでしょうか。そのためには「3つの公正」について理解を深め、心掛ける必要があります。



## ◆ 3つの公正

持続可能な社会を目指すそれぞれの立場と現場から、「立教大学ESD研究センター 次世代CSRにおけるサステナビリティ教育指針2011」では、持続可能な社会づくりのために、人材を育成する取り組みのうち「世代間の公正（未来・将来世代）」「世代内の公正（ひと・世界中の人々）」「種間の公正（自然・生態系）」を「3つの公正」としています。

### 1) 「世代間の公正（未来・将来世代）」

将来世代が、私たちと同等の環境を享受する権利があることを深く認識し、私たちの事業や暮らしが未来に与える影響を常に考え、行動にいかすこと。

### 2) 「世代内の公正（ひと・世界中の人々）」

私たちの事業や暮らしが、途上国をはじめ国内外の社会・経済的弱者と関係していることを認識し、できるだけ負担を押し付けないよう考え、実践に努めること。

### 3) 「種間の公正（自然・生態系）」

人間と自然、ヒトとヒト以外の生物との関係を根本的に問い直し、ヒトや社会の基盤である生態系からの発想を心掛けること。



## ◆ 持続可能な社会をめざして

環境保護は「つかう責任」を果たし、持続的な社会を構築するために必要です。環境保護行動は、人類が生き延びるために不可欠です。

そのために、まずは今の自分たちの暮らしや仕事と、将来世代、同世代の社会・経済的弱者、ヒト以外の生物との「つながり」を意識する必要があります。

しかし、いま国内外には、さまざまな問題を「他人のことはどうでも良い」とか「他人のせい」にしようとする風潮が出てきて「つながり」が希薄なものになりつつあります。

さらに、家族間や地域内のつながりも薄れつつあります。

このような状況を打開するため、持続可能な社会につながる価値観や問題解決型の思考力と行動力、そして社会的な問題を変えようとする意志をより強く持つことが求められています。

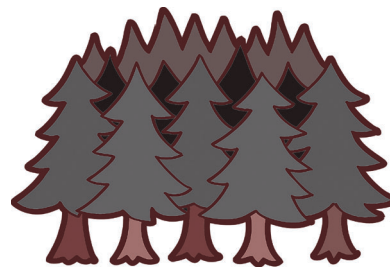


## ◆ 環境はABC

「環境はABC」とは、漫才家の林家カレー子さんの言葉です。

林家カレー子さんは、環境省の環境カウンセラーにも登録され、環境がテーマの漫才に取り組み26年、回数にして30回の環境寄席を全国で開くなどの活動をしています。

ABCは、A「あたりまえのことを」、B「バカにしないで」、C「ちゃんとやる」こと。皆さんも一緒に「ABC」で環境保護に取り組んでいきましょう。



執筆：環境省 環境カウンセラー 勝井明憲